



My Favorite Place

日々の中の「お気に入りの場所」

文・写真 (P.6下) / 下田結花 撮影 / 和田北斗

庭を眺めていると命の営みを感じる。
愛おしい美しい瞬間を抱きしめて暮らしていきたい

庭とテラスの心安らぐ時間

私が東川に住むようになって2年半が経ちました。この季節、朝、庭に出て花を摘むことから1日が始まります。昨年の秋に植えたチューリップの球根300個が咲いた時は、心おきなく花を摘むことができるのが楽しくてなりませんでした。

ここは、以前、農家さんの家があった場所。今の庭は畑になっていました。周囲には梨、銀杏、サクランボ、ブルーベリーなどの果樹が植えられていて、ブドウ棚もあり、季節の移り変わりと共に、たくさん恵みを与えてくれます。

春から秋まで、この庭を眺めるテラスが私のいちばんお気に入りの場所です。天気が許す限り、朝食は外でと決めています。鳥の声や川の音を聴きながら庭のハーブや野菜を主にした朝食は、本当に心安らぐ時間です。

ここに暮らし始めて年々見えるものがふえて行くような気がしています。春、庭に生える野草の種類や範囲が毎年変わっていくこと。夏、アジサイがずっと咲き続けること。秋、カラマツが黄金色に輝くこと。冬、霧氷は庭の木にもできること。知っている方にとってはあたりまえのことかもしれませんが、私にはひとつひとつが新鮮で発見でした。

東京の暮らしと東川との出会い

東京では夕陽を見た記憶さえないほど、1日が飛ぶように過ぎていった気が

がします。大学を卒業して出版社に入り、ずっと編集の仕事に携わってきた。帰宅は毎日、最終電車という時期もありましたが、その頃はそれが苦痛ではなかったし、何より仕事のおもしろさが優っていたのです。刺激と高揚は私を成長させてくれました。海外にも取材で何度も行きましたし、仕事を与えてくれた恩恵は、その時でなければ得られないものだったと思います。

けれど、そうした日常で失ったものも多くありました。夫の小石至誠とは、お互いに忙しかったこともあり、料理をして一緒にゆっくり夕食をとるのはごく稀なことでした。週末は疲れと睡眠不足の解消で精一杯。唯一、2人でランチがてら散歩をするのがささやかな楽しみでした。

そうして50代を迎えました。「モダンリビング」で長年、連載をしてくださっている織田コレクションで著名な



椅子研究家の織田憲嗣さんの自宅を訪れた時、「東川はいいですよ」ということを聞きし、それがきっかけで東川を取材することになりました。2014年のことです。その時のテーマは「北海道に住むなら、東川に住みたい」。まさか自分が住むことになるとは思いもせずに。私は東川をとても好きになり、年に何度か、小石と訪れるようになりました。来るたびに町の知り合いも増え、土地を紹介してくれる人もできました。

二拠点生活を決めた理由

そんな時、これからの20年をどう生きるかを2人で話し合う機会がありました。東京での暮らしは楽しいし、リノベーションしたマンションも住み心地がよいけれど、これから先、仕事に落ち着いていくことを考えると、今までと同じ生活をしていくことに魅力を感じませんでした。暮らしを変えたい。もっと自然に近いところで、ゆったりと、人と関わって暮らしたい——そう思った時、東川で暮らすという選択肢がでてきました。

まだコロナ禍以前のこと。リモートワークは現実的ではなく、月に一度行ければ、という程度でしたが、土地が見つかったこともあり、家を建てて二拠点生活をすることを決めたのです。あれから5年。東川に住むことを心待ちにしていた小石は、2021年秋、再び東川に来ることなく逝ってしまいました。白血病による2年にわたる闘病後の肺炎で。

インテリアの小さなアイデア 花の下に器を置く

私はテーブルの上に花を飾る時、必ず下に何か敷くようにしています。木のカッティングボードのこともありますし、トレイを置くこともあります。最近気に入っているのは美しいガラスのお皿。ほんの少しの花でも下に何かを敷くことで「場」ができ、収まりが良くなるのです。また、同じ花でも下に敷くものを変えることで、がらりと表情が変わります。布でも良いのですが、もう少し存在感のあるものの方が変化を楽しめます。



庭を眺めていると、日々、命の営みを感じます。どんなに美しい庭も2週間後にはまったく違った景色になっています。300個の球根のチューリップも今は姿がありません。

だからこそ、日々の中の美しい瞬間が愛おしい。そんな時間を抱きしめて暮らしていきたいと心から思う、東川の3度目の初夏です。

下田結花 (しもだゆか)

株式会社2M house代表取締役。モダンリビング・ブランドディレクター。1959年、旭川生まれ。婦人画報社(現・ハースト婦人画報社)に入社後、「ヴァンテス」編集長代理を経て2003-2016年まで、「モダンリビング」編集長。2016年から発行人、2023年から現職。2021年11月より、東川と東京の二拠点生活を始める。著書「心地よく暮らす インテリアの小さなアイデア109」(講談社)